Course number	U-LAS04 10020 OJ47　U-LAS04 10020 OJ46　U-LAS04 10020 OJ45 U-LAS04 10020 OJ17

Course title (and course title in English)	統合型複合科目（人社群p2）：「当たり前」を問い直すコミュニケーション科学　HC03 Integrated Liberal Arts and Science with Small Group Seminars (Humanities and Social Sciences p2) :Communication Science for Questioning Unnoticed Norms HC03	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Institute for Liberal Arts and Sciences Associate Professor,YOKOMORI DAISUKE Graduate School of Medicine Professor,KATAOKA HITOMI Graduate School of Human and Environmental Studies Professor,KAKIHARA TAKESHI Institute for Liberal Arts and Sciences Professor,TSUKAHARA NOBUYUKI Graduate School of Asian and African Area Studies Professor,TAKADA AKIRA Graduate School of Medicine Associate Professor,IWAKUMA MIHO Institute for Liberal Arts and Sciences Associate Professor,KANAMARU TOSHIYUKI Institute for Liberal Arts and Sciences Associate Professor,IZUMI EMI Agency for Student Support and Disability Resources Associate Professor,FURUKAWA HIROYUKI Graduate School of Informatics Assistant Professor,INOUE KOJI

Group	Humanities and Social Sciences	Field(Classification)	Pedagogy, Psychology and Sociology(Foundations)

Language of instruction	Japanese	Old group	Group A	Number of credits	4

Number of weekly time blocks	2	Class style	Lecture + Seminar (Face-to-face course)	Year/semesters	2026・First semester

Days and periods	Tue.2・Thu.5	Target year	All students	Eligible students	For all majors

[Overview and purpose of the course]

友人や家族との何気ないおしゃべり、お店や公共施設での買い物や手続き、SNSでのメッセージ交換。私たちの毎日は、無数のコミュニケーションの積み重ねによって成り立っています。「もっとうまく話せたら」「どうして伝わらないんだろう」――そんな悩みや疑問を抱いたことが、誰しも一度はあるはずです。コミュニケーションは、あまりに身近で「当たり前」の存在であるがために、それが学術研究の対象になるということは想像しにくいかもしれません。しかし、コミュニケーションは取るに足らない些末な事象では決してなく、人間社会の根幹を成すインフラとして、文系・理系の区分を越えて幅広い専門分野からの研究が長く積み重ねられている、重要な研究主題なのです。
この統合型複合科目は、そんな日常の「当たり前」を科学的に問い直すための知的探究です。「講義」（全14回）と複数の「少人数演習」（全14回）の組み合わせから構成されます。

木曜5限に実施される「講義」では、受講生が一堂に会して、各分野の専門家による授業を受けます。「講義」という名前ですが、授業内では教員からの一方向的なレクチャーだけでなくグループディスカッションや実習的な活動も行います。また、各講義には別の教員がコメントする時間を設け、講義内容を多角的な視点から深めていきます。

「少人数演習」は、それぞれ異なる曜日時限に実施され、ディスカッション・文献講読・データ分析実習など、各教員が設定した授業活動に参加します。少人数演習の内容については、下記の「授

Continue to 統合型複合科目（人社群p2）：「当たり前」を問い直すコミュニケーション科学　HC03(2)↓↓↓

業計画と内容」をご覧ください。

○統合型複合科目分類　【文・理】
　主たる課題について文系分野の要素が強く、副たる課題については理系分野の要素が強いと考えられるもの

[Course objectives]

本講義の履修を通じて、受講生は以下のことができるようになります。
①コミュニケーションへの多角的な学術的視野の獲得
■コミュニケーションに関する複数の専門分野（言語学、心理学、情報学、医学、社会学など）の主要な理論や知見を理解し、説明できる。
■ひとつのコミュニケーション事象に対して、特定の視点だけでなく、複数の学問的立場から複眼的に捉え、議論できる。
②コミュニケーションに関する分析スキルの習得と実践
■実際のコミュニケーションデータ（会話の録音・録画、テキストデータ、自己観察記録など）を収集し、適切な学術的手法を用いて分析できる。
■「当たり前」とされる日常のやりとりや規範を、科学的な根拠に基づいて批判的に問い直すことができる。
③自己の実践と社会課題への応用
■自身の日常的なコミュニケーションを客観的に観察・分析し、その特徴や課題を言語化できる。
■授業で得た洞察を活かし、他者との関わり合いや社会的なコミュニケーション課題に対して、より深い理解と実践的な見通しを持つことができる。

[Course schedule and contents)]

（この授業では、講義と少人数演習を併せて学びます。講義のみ、少人数演習のみの出席では授業の到達目標に達しません）

◆講義　木曜5限　教育院棟講義室31（※第2-3回のみ医学部構内の「基礎医学記念講堂」にて実施です。詳細は第1回授業にてお伝えします。）
第1回(4/9)　イントロダクション：コミュニケーションの「当たり前」とは？
第2回(4/16)［コミュニケーション学］コミュニケーションとは何か（岩隈＋コメント横森）
第3回(4/23)［コミュニケーション学］（続）コミュニケーションとは何か：ヘルスコミュニケーションを題材に（岩隈＋コメント片岡）
第4回(4/30)［情報学］会話ロボットERICAと出会う：AIから考える人間の対話（井上＋コメント金丸）
第5回(5/7)［情報学］AIから考えるターン交替（井上＋コメント横森）
第6回(5/14)［情報学］AIから考える傾聴（井上＋コメント古川）
第7回(5/21)［情報学］AIから考える笑いと感情（井上＋コメント高田）
第8回(5/28)［コーパス言語学］「英語ペラペラ」を問い直す（金丸&和泉＋コメント塚原）
第9回(6/4)［会話分析］「日常会話」を問い直す（横森＋コメント柿原）
第10回(6/11)［人類学］「一人前になること」を問い直す（高田＋コメント井上）
第11回(6/25)［臨床心理学］コミュニケーションと大学生の自己理解（古川＋コメント和泉）
第12回(7/2)［医学教育学］医療とケアのコミュニケーション（片岡＋コメント高田）
第13回(7/9)［社会言語学］コミュニケーションする権利と政策（塚原&柿原＋コメント和泉）
第14回(7/16)　総合討論
第15回(7/30)　フィードバック授業

Continue to 統合型複合科目（人社群p2）：「当たり前」を問い直すコミュニケーション科学 HC03(3)↓↓↓

◆少人数演習
【C班：「英語ペラペラ」とはどういうことか：学習者コーパスとELFデータの分析から（担当：金丸敏幸・和泉絵美）火曜2限　共北12】
　私達が英語を学ぶ際、「英語ペラペラ」を目指したり、「英語ペラペラ」でないことを嘆いたりすることがしばしばです。しかし、実際のデータを検討すると、文法や発音が英語ネイティブと同じような水準にあることが必ずしも英語コミュニケーションの円滑さに直結しているわけではないことがわかります。本演習では、英語学習者の発話や文章の実際の記録を集めた学習者コーパスを定量的に分析したり、母語の異なる人同士が「国際共通語としての英語 (English as a Lingua Franca)」を使っているデータを質的に分析したりすることを通じて、語彙・文法などの技能にギャップがある中で人々がどうやってコミュニケーションを成立させているのか、その実態に迫ります。そして、「英語が完璧でなくても、今すぐ世界とつながるユーザーになれる」という視点に基づき、実践的なコミュニケーション・ストラテジーを探究します。
・第1回：ガイダンス
（本演習の内容・形式の計画を説明すると共に、テーマである学習者英語・ELFについて考える第一歩となるアクティビティを行う。）
・第2-7回（担当 和泉）：話者のレジリエンス―国際共通語としての英語（ELF）のダイナミズム
（異言語話者間のELFコミュニケーションの記録を分析したり、ELFをめぐる多様な言説を検証することにより、たとえ英語の手持ち（語彙や文法）が少なくても、なんとか意思疎通しようと創意工夫する人間の適応力について考える。第7回授業では、受講生がそこまでの演習に基づくミニ発表を行う。）
・第8-13回（担当 金丸）：英語学習者コーパスから見る英語学習
（様々な母語を背景に持つ英語学習者の作文や発話を集めた学習者コーパスについて、どのような分析が行われているのか、また、そこから英語学習と母語との間にどのような関係があるのかを探る。具体的には、文献を参考にしながら、実際にコーパスを分析してみる。第13回では、それまでの演習に基づいたミニ発表を行う。）
・第14回：まとめ
（演習のポイントを振り返りながら、異言語話者間のコミュニケーションや英語学習の未来について討論する。）
・第15回：フィードバック

[Course requirements]

特になし。特別な予備知識は必要とせず，文系・理系を問わず全学部生向けに授業を行う。

[Evaluation methods and policy]

・講義への取り組み（リアクションペーパー等）：50%
・少人数演習への取り組み（発表、実習、ディスカッション、小レポート等）：50%
※講義および少人数演習の成績評価の詳細は，それぞれの初回授業で説明する。

[Textbooks]

Not used

[References, etc.]

（References, etc.）
Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

授業資料の要点を予習・復習する。それ以外の課題がある場合は、授業時に指示する。

Continue to 統合型複合科目（人社群p2）：「当たり前」を問い直すコミュニケーション科学 HC03(4)↓↓↓

統合型複合科目（人社群p2）：「当たり前」を問い直すコミュニケーション科学 HC03(4)

[Other information (office hours, etc.)]

成績証明書等では、表示文字数の制約上、英文科目名「Integrated Liberal Arts and Science with Small Group Seminars」**が**「ISS」**と略記されます。**

[Essential courses]